

令和7年度 第1回 丹波市障がい者施策推進協議会 会議録

日時	令和7年7月18日（金） 午後2時
場所	丹波市役所本庁第2庁舎 ホール
出席者 （敬称略・順不同）	【委員】 足立一志、谷口泰司、船越藤三、足立定之、近藤紀子、坂上具子、前田公幸、田野基宏、大槻真也、木田佳伯、足立潤子、石塚和彦、足立一二美、村上豊 ※欠席 林伸幸、由良ゆかり、八木武治、小森真奈子、吉村智加子 【オブザーバー】 衣笠恵美（丹波市障がい者基幹相談支援センター）、川野みか（ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西ブランチ）、原田早苗（丹波障害者就業・生活支援センター ほっぷ） ※欠席 芦田将司（丹波市立こども発達支援センター） 【事務局】 森本英行（福祉部長）、荒木信博（障がい福祉課長）、細見直樹（障がい福祉係長）、前川武志（障がい支援係長）、荻野悦代（主任社会福祉士）

1 開会

2 委嘱書交付

所属団体の役員改選等に伴う新委員に委嘱書を交付

丹波市社会福祉協議会 近藤紀子氏（令和7年4月1日～令和8年3月31日）
 柏原職業安定所 木田佳伯氏（令和7年4月1日～令和8年3月31日）
 丹波県民局 八木武治氏（令和7年4月1日～令和8年3月31日）
 丹波市自治会長会 村上 豊氏（令和7年6月30日～令和8年3月31日）

※その他

近藤紀子委員 副会長就任
 前田公幸委員 地域支援部会長就任
 高見忠寿委員 退任（令和7年3月31日）

3 会長あいさつ

※次第5「議事」については、個別事例の取扱等もあり、個人情報保護のため非公開とすることが提案され、非公開と決定した。

4 報告事項

（1）各部会の報告について

[会長]

それでは、次第4の報告事項に入りたいと思います。各部会長より報告をお願いします。

地域支援部会・・・資料①

[地域支援部会長から報告]

就労支援部会・・・資料②

[就労支援部会長から報告]

療育支援部会・・・資料③、資料④

[療育支援部会長から報告]

[会長]

ただいま、各部会から報告がありました。質問、意見等ございませんか。
(質問等なし)

5 議事

個別事例の取扱等もあり、個人情報保護のため非公開とすることが提案され、非公開と決定。

6 その他、意見交換

[会長]

それでは、全体を通しまして、ご意見、ご感想、いかがでしょうか。

[委員①]

初めてこういう形でいろんな議題を聞かしてもらったのですが、本当に知らないことがたくさんあるなと思いました。これからまた勉強させていただけたらと思います。ありがとうございました。

[委員②]

本当に初めて聞くような文言があって、認識のない中で聞かせていただいております。感じたのは、地域の中で何ができるのかなと。自治振興会で、地域づくりの10年間の指針を作っているのですが、私を感じるのは、健常者とか元気な人といいますか、そういうものを見て、何かそういう地域づくりの計画書を策定しているのではないかと。もっともっと見る視点を変えていかないと、何か本物の計画書にはならないのではないかとというような反省を今日いただきました。その中で、地域として何ができるのかを自問自答しているのですが。なかなか素人ができるものではないのですが。

やはり、地域ができることといったら支え合いの場合なので、そういった事業がどういうふうにできるのか。本当に私もわからないのですが、今後、会議を通じまして何かヒントが得られたらと。なかなか専門的な分野なので、素人がとても取り組めるようなものではないですが。ある意味、そういう事業所、そういう専門の方ができないことを地域で何かできることがないか、ヒントをもらえたらいいのかなと。何を話していいかわからないのですが、感じたことをそのまま言わせていただきました。またよろしくお願ひしたいと思います。

7 その他

[会長]

はい、ありがとうございました。皆さま方から、この場でお知らせすべきことがありましたらお聞かせください。

[委員③]

学校教育課から、少しだけこのリーフレット（丹波市特別支援教育ビジョン）の説明をさせていただきます。このリーフレットは全教職員に配布しております。ですので、教職員向けのリーフレットになりますが、皆さま方にも共有させていただきたいと思います。

今年度、丹波市特別支援教育ビジョンとして2025年から2030年のビジョンを策定しました。その背景として、ただいま丹波市では全児童生徒数が10年間で約1,000人減少しております。しかし、その一方で、特別支援学校に入学する児童生徒は年々増加し続けています。また、通級を開始する児童も200名を超えております。そして、通常学級に在籍する児童も多様化していて、本当に先生方が日々試行錯誤をして子どもたちと向き合っている状態です。子どもたちの教育的支援のニーズが多様化する中で、もう先生たちは、本当にどのように支援をしたらいいのか。この支援で本当に良いのだろうかということを悩まれています。そういった声も、私たちのもとに届いています。

そういった現状を受けて、2025年から2030年の5年間のビジョンを策定しました。目指しているのがこの青い部分です。「だれもが主体的に暮らし、共に支えあうまちづくり」、このまちづくりができるように、これは丹波市障がい者・障がい児福祉プランの基本理念となっています。この社会を目指すために学校教育は何ができるかと考えた中で、目指すところは一人一人を大切にしたいインクルーシブ教育の実現だということで、このビジョンを打ち出しました。そして、そのために、2本の柱を設定しています。

1つは、適切なアセスメントに基づいた指導です。すべての教職員が特別支援教育の視点を持つということは、みんながその特別支援のエキスパートになるということではなくて、それに越したことはないのですが、教育の専門家として、子どもたちをどう見るか。その子どもを知りたい。理解しようという思いをまず大切にしましょうっていう願いを子どもへのアプローチに込めています。

もう1つは、学校が集団で生活するのは変わりません。ですので、集団へのアプローチを大事にしたいと思っています。目指すところは多様性を包摂する学級づくり、授業づくりです。この第1層支援の三角の図ですけども。一番大事なのは、すべての子どもたち、障がいも関係なく、すべての子どもたちを対象にした多様性を包摂する学級づくり、授業づくりを大事にしていくということが大事だと思います。この第1層の支援の幅を広げていくことで、本当に個別支援が必要な第2層、第3層の子供たちの学びが充実すると、そんなふうに考えています。この2本柱を進めていくために、学校教育課として何ができるかと、先生たちに何がどんなことを支援できるかと考えた結果、この両端の大きく2つのことを今取り組んでいます。

1つは伴走型支援です。今年度から、丹波市立教育支援センターに専門家チームを配置しました。臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士等の専門家チームが毎日学校訪問して、一人一人の子どもにあった、見立て、それから支援方法を助言しています。

そして、左側の研究推進です。現在、たくさんの児童生徒が特別支援学級に在籍しています。その子どもたちにも学びの保障をきちんとしていこうということで、この2年間は研究協力校を指定して、まずは特別支援学級のお子さんの学びを充実させようと、ともに研究を進めています。まだ試行錯誤の段階です。そして、2027年度からは、これをすべての子どもたちを対象にして、インクルーシブ教育を実現するために、通常学級の学びの充実を図っていこうと計画しております。

今年度はビジョンの初年度となりますので、本当に今試行錯誤の日々です。ただ子どもたちの未来のために、教育委員会として、今、何ができるかっていうことを問い続けながら、学校とともに連携をしてやっていきたいと思っています。課題も本当にたくさんあるのですが、どうぞ、皆さんもご理解ご協力よろしく願いいたします。お時間いただきありがとうございます。

〔副会長①〕

バリアフリー映画の上映会のチラシを置かしてもらっております。これは丹波市の善意銀行という取り組みです。市民の方から寄せられました善意の財源で、善意の銀行を設置しております。その中の財源を使いまして、より地域に広く、皆さんの善意を広めていきたいという取り組みで、今年初めて取り組ませてもらっております。

市内のエビスシネマさんを貸し切りまして、8月2日、3日に、バリアフリーの、できるだけバリアを、障壁を除いたような映画会で、字幕であったり、またUDキャストというアプリで音声を流したりとかいうふうなこともできます。そして発達障害、精神障害の方に対応できるように、会場を明るめに、また音量小さめの会も用意しております。立ち歩き、それから出入、そういうこと自由です。しんどかったら休憩してまた見ていいですよって、皆さん気兼ねなく、映画を楽しんでいただきたいということで、無料招待をさせていただきます。

今日が申込締め切りで、6回上映しますが、まだ余裕がありますので、締め切りにはなっておりますけれども、まだまだ募集中ですので、どなたか知り合いの方がいらっしゃったら、お勧めいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

[会長]

それでは最後に、副会長であります関西福祉大学の先生からご感想等いただきたいと思います。

[副会長②]

本当、時には、障がいに関しては専門ではないのというふうな声があったりしますが、むしろ本当に地域で生きていくというのは、専門職とか施設事業所だけでは到底できないことだと思います。むしろ、専門でないからこそ安心して障害のある方との共生を考えるというか、気楽って言うと言い方が適切かどうかかわからないですが、ちょっと一歩出るっただけでね、全然違うっていうところは、もうぜひ信じてやっていただければと思います。

先ほど言いましたように、ここに座って、開会までずっと丹波市特別支援教育ビジョンのリーフレットを見ていたのですが、国がこうしなさいとか、あるいは県の教育委員会が、こういうふうなことを打ち出してきた上で丹波市さんは作成されたのですか。それとも、国とか県とか関係なく、丹波市の教育委員会としてこういうのを本当に真剣に考えた結果なのでしょうか。いずれにしても素晴らしいです。

[委員③]

県でも特別支援学級に在籍している児童生徒が増えているっていうのは同じ現状なんですけども、これはもう丹波市の現状と課題を踏まえて、独自で作成したものです。

[副会長②]

10月に、実は県障害福祉審議会がありますので、そこで計画を見直します。もしよろしければ、また後でお話しますけども、この資料は絶対県の審議会に出すべきだと思います。

全ての先生や教職員が特別支援教育の視点を持つということは、本当に15年後、18年後、その子どもたちが成人になっていって、確実に丹波市は変わっていくので、正直すごいなと思います。他の議論もすごかったんですけど、今日はちょっとこれにやられました。ありがとうございました。

8 次回の日程

[会長]

ありがとうございます。それでは次第6の次回の日程などにつきまして事務局からお願いをいたします。

[事務局]

失礼いたします。次第6番の次回の日程ですが、令和7年10月31日の金曜日、午後2時からということで、第2庁舎の2階ホールで開催しますので、またご案内をさせていただきますけどもご参加の方よろしく願いいたします。

それからもう1点ですけども、自治会長会の代表の方も言われました、地域で取り組めることが何かないかなというようなことを感想として言っていたいたと思うんですけども、就労支援部会の部会長さんの方が報告をされました障がい者サポートマイスターの取り組みについては、自治会とか自治協議会とかも認定の対象団体というふうにしております。ただ、まだ、自治会で申請されているところがありません。ぜひ、第1号ということで、申請とか、ご検討いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。事務局の方からは以上です。

9 閉会

[会長]

最後に副会長、閉会の挨拶をお願いいたします。

[副会長①]

皆さんお疲れ様でした。本当に私も初めて参加させていただきましたけれども、こうやっていろんな代表の団体やそれぞれ皆さんが寄っていただいて、いろんな意見を出していただく、そしてこうやって施策に活かされていく、またそれぞれの地域で活かされていく、とてもすばらしい取り組みだなと思っております。この会議の中で議論が一層深まりまして、新しいことに取り組んでいけるようなことがあれば嬉しいと思います。暑さが厳しくなっております。委員さんそれぞれお体ご自愛いただきますようによろしく願いいたします。本日ありがとうございました。